

講 演

第 24 卷 第 1 號 昭和 13 年 1 月

支 那 事 変 に 就 て

(昭和 12 年 11 月 11 日土木學會第 77 回講演會に於て)

海軍中佐 水 野 恭 介*

要 旨 本講演は今次の支那事変中直接海軍に最も關係して居る上海方面に於ける事変の經過、特に昭和 7 年上海事変後の経緯と戦況に就て述べたものである。

今夕皆様方の前で支那事変について、特に海軍の見地からこの事変の概況をお話申上げることが誠に光榮に存じます。但し本職の者が話をするのであるから、何か新聞なんかを書いてない立入つた話を聞けると思つてお出になると聊かの外れになるのではないかといふことを竊かに惧れるのであります。この前陸軍の新聞班の大久保中佐が來られて陸軍の方のお話が 9 月下旬にあつたやうであります。私と致しましては特に今日お集りの方々は知識階級の而も程度の高い方々でお居でになりますから、一般の講演の時のやうに、今度の事変の思想的背景であるとか、さういふ問題は一切抜きにして單刀直入に直接海軍の最も關係して居る上海方面のことをお話致さうと思ひます。之は實は私個人としても北支の方などは正直のところ一遍も行つたこともないし、一体支那は非常に不案内であります。却つてヨーロッパ、アメリカの方には度々参りましたけれども支那は一向知らないのであります。但し上海だけはこの前、即ち昭和 7 年の上海事変の最中に野村第 3 艦隊司令長官の副官として、事変が始ると直ぐ上海に参りまして、ずつと事変中旗艦に居りまして幕僚事務を致し、特に對外交渉等に當つて居りました。それから事変が納まりますと停戦會議に委員の末席を汚しまして、停戦協定を作りました経緯については詳しく存じて居りますので、今度事変が始まりましてからはまだ参りませんが、上海の事情は相當に分つて居る積りであります。それ故なまじひに自分の知らない方面についてお話するよりも、特に今度の事変の中でも大切な役割を演じて居る上海のことに就てお話しようと思ひます。特に申上げて置かなければならない點は、この前の上海事変と今度の上海事変との關係であります。

御承知のやうにこの前の昭和 7 年の上海事変は支那全体と申すより彼の 19 路軍がこの上海の附近に駐屯して、その前から長年支那の内部に起つて居つた排日運動の一つの現れとして、而もそれがその前年の滿洲事変から非常に激しくなつて、その飛ばつちりが遂に上海に現れたのであります。昭和 7 年 1 月 28 日の晩から陸戦隊の者が便衣隊に射たれまして、さうしてこの前の事変が始つたのであります。

元來上海は御承知の通り揚子江に注ぐ一つの支流黃浦江の河口（そこに吳淞の砲臺がありますが）そこから約 15~16 mile も溯つた所にある都市であります。上海そのものが支那の中にありながら、殆ど支那の主權を離れた一つの國際都市、言葉を換へて言へば國際的の一つの獨立國家のやうな形をして居るといふことが、之は上海が世界のどんな都市より特別に違つた性質であります。之が能く頭に入らぬと上海事変そのものも呑み込めないだらうと思ひます。これは此處に（地図による）色々な色別けがしてありますが、大部分は共同租界であります。即ち日本、イギリス、アメリカ、イタリヤ、この 4 箇國の共同管理であります。その南の方にフランスだけは特別に專管租界を持つて居ります。先づ共同租界の方から申すと日、英、米、伊 4 箇國の代表者が出まして、英語で言ふ

* 海軍省軍事普及部勤務

とミュニシパルカウンスル、之を工部局と名づけるのでありまして、ちよつと土木協會に名前だけは似て居るが實は之は土木だけをやるものではない。詰り一つの市政府を形造つて居るのであります。そこに各國の代表者が出て市參事會といふものを作り、それで工部局の行政をやつて居るのであります。之は單に行政機關のみならず司法機關を有つて居るのであります。言ひ換へれば支那の行政權も司法權も共同租界には及んで居らないのであります。フランス租界はフランスだけで今のやうなことをして居るから、殆どこゝはフランスの領土と言つても宜い位の所であります。この外に或る一定の租界の外に出た道路、擴張道路（エキステンションロード）と申して居りますが、この擴張道路は租界と全く同じ取扱を法律上受けることになつて居ります。さうしてこれ等の租界の中には今申した各國の軍隊が駐屯して居るのであります。之が又支那の支那たる所以であつて、列國は支那の主權を日本が侵害するとか何とか非常にやかましく申して居りますが、支那の本當の獨立性を認めないのとは寧ろ英米等が先に立つて實際は認めて居らないので、今更申上げる迄もなく地球上のどんな小さな國でありまして、苟も獨立國であるならば、その中に平時から外國の軍隊を駐屯させて置くやうな所はないのであります。併しながら支那だけは特殊な國でありまして、今のやうな北支に於ても各國の軍隊が居るし、上海も各國の軍隊が居つてそれぞれ警備區域を決めて居るのであります。例へばこの部分はイギリスの義勇軍が持つて居る。こゝはアメリカの海兵隊が持つて居る。こちらはイギリスの陸軍が持つて居る。こゝの小さい所はイタリーの軍隊が持つて居る。斯ういふ警備區域が決つて居つて、この東の方の部分は日本の陸戰隊が持つて居る警備區域であります。外の國は英國にしてもフランスにしても平常から陸軍が置いてあるのであります。之も注意すべきことであります。アメリカはマリーンと申して海兵隊と譯して居りますが、日本にはさういふ兵種がございません。組織上は海軍に屬して居るが平常の仕事は全く陸兵と同じことをやつて居るのでありまして、階級等の名稱も總て陸軍の通りであります。斯ういふものが置いてあるに反して日本はこゝには陸軍がなく、又海兵といふやうな兵隊もありませんから、言ひ換へれば軍艦に乗つて居るのと同じやうな教育を受けた海軍の水兵が特別陸戰隊といふものを組織して、さうして本部をこゝに置いてこの警備區域を受持つ譯であります。支那のことですから色々な原因に依つてどうしてもこの上海を警備しなければならぬといふ時に、各國の指揮官の間に豫てから決められた持場がありまして、それに依つてこの警備に就くのであります。この前の上海事變の時にもさうでありまして、受持の警備區域に就きます時に日本の方は支那の便衣隊の爲に射たれて、それでこの前の事變が起つたのであります。

そこで御承知のやうに事變が始まりますと、海軍と致しましては第 3 艦隊を組織して野村中將がその司令長官として行かれることになり、私はその副官を仰せつかつてこゝに入つて行つた。艦隊司令長官もさうであるし、後に陸軍の指揮官が行つた時も、先づ 19 路軍に對して上海を安全にするだけの位置に引下がることを勸告したのであります。さうすれば無論我々は戰はないで済むのである。日本はいつも申すやうにこゝに領土的の野心があつて乗り込むとか何とかいふ譯でなしに、元來こゝに陸戰隊があるのも居留民の現地保護といふことであるから、之を安全にさへすれば戦ふ必要はないのであります。19 路軍に勸告したけれども、その勸告に応じませんので、どうしても武力を以て租界を安全にする位置迄下げなければならぬといふことになつた。かくて交戦 1 箇月餘りで 3 月初めに 19 路軍は全線に互り退却をして大体許浦鎮、太倉、安亭を結ぶ線迄撤退をした、無論日本軍は之を追つて行つたのであります。こゝでもう上海に彈丸の届かない安全な位置に迄參りましたので、こちらは出兵の目的通り、どこから頼まれもしないのにこちらで停戦を宣言した。そこでそれ迄縮まつて居りました各國の代表者達が出て來て、この日支の間の調停を致すことになつた。主として之はイギリスの公使のランプトンを初

めと致しまして、アメリカ、フランス、イタリー、イタリーは例のムツソリーニのお婿さんのカウントチアノが非常に若いのですが、こゝに公使として居りまして、それ等の人々が間に立つて調停役を務め、停戦會議を開くことになつたのであります。

この會議に於て出來た協定の極く概略を申しますならば、支那軍は當時引下つた位置より上海方面に向つて入つて來てはならぬ。日本軍は事變の起つた前の位置迄撤退する。従つてその間の廣い區域は停戦區域でありまして、謂はば中立地帯であります。どちらの軍隊も入つてはいけないといふ地區であります。ところがこれは誰が御覽になつても直ぐ大きな穴が開いて居ることには氣がお附になると思ひますが、この停戦區域の線が蘇州河のところ迄來てボツンと断れて居る。之から下はない。之は私共幾ら馬鹿でもこんな穴に氣が附かぬ筈はないのであります。どうしても我々はこの線を完全にして上海をグルツと取巻くことを非常に強く主張したのであります。支那の代表でありました當時の外交部次長の郭泰祺、之は若いが非常な才物で今イギリスの大使になつて行つて居る。この男が非常に頑張りまして之を承諾しなかつた。その理由は一体停戦協定といふものは讀んで字の如く戦を停める爲の協定であつて、こんな戦闘も何も行はれなかつた部分に勝手に線を引いてさういふ地區を拵へて、こゝから支那の軍隊が入つちやいけないといふことを決めるのは、支那の主權侵害であるといふことを楯に取りまして、もう頑として応じなかつた。よく言はれて居ることではあります。我々日本人は戦争にはなかなか強いけれども會議には弱いといふのであります。或はさうであるかも知れません。少くも心臓の強さに於ては支那人に敵はないものと見えまして、さういふやうな支那側の主張が非常に強く、さうかと言つてこちらがそれでは承知が出来ないと云へば、又こゝで射ち合を始めなければならぬ。之は列國が非常に困るのでありまして、ランブソンなんか非常に頼みまして、どうせ停戦協定といふものはさう永久的のものでなくつて、この次に上海の處理に付てはラウンド・テーブル・コンファレンスのやうなものを開きまして、列國も入つて條約を作るといふことを前提にして居た。その會議がその後行はれなかつたので、無論停戦協定は今日迄有効であります。イギリス側と致しましても、その條文の中に上海附近に於けるあらゆる形式の敵對行爲を停止すといふことがあるから、この邊に支那の軍隊の入つて來るのも敵對行爲と見て宜いだらうといふやうなことで、謂はば我々は人が好いものだから胡麻化されたやうな恰好でありまして、さういふやうにして停戦協定は出來上つたのであります。

然るに今度の蘆溝橋事件が起るよりずつと前から、支那側はこの停戦協定をどんどん蹂躪しつゝあつたのであります。それは何であるかといふと、蘇州河以南の方は條約の文句の上では餘り突込むことは出來ないかも知れませんが、明かに決められて居る停戦地區内に盛に陣地の工作をやり始めたのでありまして、之は無論日本側でも夙に氣附いて居つて抗議を申込んだのであります。遂にはこの蘆溝橋事件の始まる前、6月中にいよいよ之はいかぬといふので厭がる支那側を無理に促して各國の武官と一緒に、之は先程申したやうにこの停戦協定は各國の代表者も一緒に調印して居るのでありまして、従つて専門委員は各國の公使館附の武官がこれに入つて居る。さういふ共同委員も一緒になつて現地視察をやつたことがあるのであります。さうすると果して色々な所に顛覆のやうなものがあつたりトーチカ類があつたりした。それに對して抗議を申込みましたところが支那側は非常に凶々しくも停戦協定には軍隊を入れてはいけないといふことは書いてあるけれども、工事を実施してはいけないといふことは書いてないといふやうな所謂盗人猛々しいやうな返事をしたのであります。之は怪しからぬといふので抗議も申込んだのであります。要するに抗議といふやうなことでは効果がない。支那側は言を左右にしてこの問題を避けて居つたのであります。その内に今度北支に事件が起りますと、もう支那側は全然この停戦協定にはお構ひなしにどんどんこゝに軍隊を入れて來た。元來この地區は保安隊といふ一種の警察隊で警備をす

るといふことになつて居つたので、初めのうち正規の軍隊はこの中に入れば保安隊の服に替へて保安隊になつてしまつて居つたが、後にはそんなことには一切構はず正規の軍隊が入つて来た。その事實に対する現れとしてはもう7月半ば過になりますと、純粹の支那街であるところの關北方面から支那人が荷物を持つてゾロゾロ共同租界の方に流れ込んで来た譯であります。之はこの前の事變の直前にも現れた現象でありまして、その背後に支那の軍隊がどんどん入り込んで来たことを最も雄辯に物語るものでありまして、一つには自分達の居所を奪はれてしまひ、一つには必ず日支の射ち合が始まるといふことが分るからどんどん避難して来る。そこでこちらの日本の居留民達は不安を感じて居りますと、その内に8月9日の夕方例の大山事件といふものが起つたのであります。

その前に上海を警備して居る陸戦隊の數に付て申しますならば、之は僅か平時2500~2600の兵力であります。而も先程申しましたやうにこれは水兵でありまして、純粹の陸上の訓練に於ては無論陸軍のやうに出来て居らない者であります。それが廣い警備區域を持つのであります。さうしてこゝに居るところの居留民は平時25000~26000位であります。御承知のやうに北支事件が起りましてから帝國政府はどこ迄も事件不擴大といふ方針でありましたから、揚子江の沿岸ずつと上の方に迄居つた居留民を引揚げさせることに決心致しまして、中には數十年の間非常に骨を折つて地盤を造つて居つた居留民達も、すつかりさういふものを放棄して引揚げるといふ方針を取らせて引揚げて来て居りましたものが、大分この上海には一時足留りをして居ましたから、約8萬位の居留民があつた。後から色々な情報を合せて考へて見ますと、蔣介石はもう北支の方は二の次にして、上海にまだ日本の強力な陸軍が来る前に僅かばかりの陸戦隊と居留民とを一擧にして殲滅してしまはう。特に上海は世界各國の見て居る謂はば晴の舞臺でありまして、この各國の眼の前で日本軍を一擧にして叩き潰してしまはうと考へたらしいのであります。そこで起ち上りの初めに於てこゝに既に十萬といふ軍隊を入込ませて居る。而も北支の方には大分雜軍も混つて居るが、こちらの方には中央軍の精銳を振り向けたのであります。北支の方に一時上り掛つて居つた軍隊迄上海方面に振り向けまして、非常な大軍を上海戦線には集中したのであります。之に對して僅か2千數百といふ陸戦隊、非常に時機が迫つてから僅かな増勢はして居るけれども、せいぜい4000に足らない位の陸戦隊を以てこの區域を引受けて居つたのでありますから、實に危険この上もない有様になつて居つたのであります。

そこで外國などで事情を知らない者が考へるやうに、この4000かそこの陸戦隊を以て數十萬の支那軍に對してこちらから挑戰的に出るといふやうなことは如何に無鉄砲でも考へられないことでもあります。さてこの陸戦隊はこゝに本部があり、こちらに(図示)西部派遣隊といふのがありまして、アメリカの海兵の警備區域でありますけれども、この邊に日本人の紡績工場が非常に多いのでありますから、この方の警備をやつて居る。之は極めて少い兵力を分けてあるのであります。その西部派遣隊の隊長をして居つたのが大山中尉であります。この人が8月9日の午後齋藤といふ一等水兵の運轉する自動車に乗つてこの警備區域を見廻り、それからこゝから出て居る擴張道路が虹橋飛行場近所迄行つて、夫が北の方に曲つて所謂モニュメント・ロード(碑坊路)となる。その道路の上に於て9日の夕方2人共支那保安隊の者に慘殺されたのであります。この事件の報に接して直ぐに日本側から公使館附武官補佐官が行きましたし、工部局その他の者も現地に馳けつけたのであります。茲は擴張道路の上でありますから全然工部局警察の受持區域内であります。行つて見ましたところが自動車には非常に澤山の彈丸を受けて居り、大山中尉は車内から引摺り出されて身には十數發の彈丸を受けて居る。之は死後にしたのであるが、銃尾を以て頭蓋骨を粉碎されたり、銃劍を以て腹を抉られたり、二目と見られない慘虐振

を發揮して居る。運転して居つた齋藤水兵の死骸はなほ 1000 m 位離れた所に発見されたのであります。これも身体中にむごたらしい傷だらけで死んで居る。その 2 人が殺される有様を目撃した西洋人のウイットネスもあります。又支那人の見て居つた者もあつたのであります。何しろ調査に行つたのが夜でありますので、翌朝までその儘にして置いて、翌日再び調査をするといふことになつた所が、外國人のウイットネスは又出て來たのであります。支那側の證人は皆その晩に南京に接はれて行つてしまつた。なほ訝しなことには前の晩にはなかつたところに 1 人の支那兵の死骸を支那側が出して來て、大山中尉が無理矢理に支那の軍用飛行場であるところの虹橋飛行場に入らうとして、保安隊が之を阻止したところが大山中尉がピストルを出してこの支那兵を射つた。之がその死骸であると言つて見せた。その支那兵の死体を検査致しましたところが、彈痕に依るとピストルの彈ではなくして小銃、機關銃の彈であるといふことが立證されたのであります。無論日本側には小銃も機關銃もその時無いのでありまして、大山中尉はピストルさへ持つて居らなかつた。齋藤水兵は肩から下げて居りましたが、之は運転中に射たれたのでピストルを射つ暇はなかつたことは明かにされたのであります。

斯ういふやうに支那側は不法どころでない非常な惨虐な行爲をやり、而も斯ういふ作り事迄して日本側を悩まうとしたことに付て陸戦隊は勿論のこと非常に憤慨を致したのであります。尙之を聴きました列國側としては又この前のやうな事件が起つては大変だといふので、各國の領事達が頻りに調停に一生懸命になつたのであります。どうか事を荒立てずにしてくれ、之は支那側が悪いことは分つて居るのだからといふことで支那側に謝罪とか處罰とかを列國から一生懸命やらせることにして、日本側にもう少し待つてくれといふことになつたのであります。それで日本側としては忍び難いところを忍んで調停を待つといふことになつて居りました間に、遂に 8 月 13 日にこの守備區域の全線に於て至る所で便衣隊の爲に日本の陸戦隊の者が射たれるといふことが始つたのであります。さうして尙その日には支那側の飛行機が参りまして、豫ねて軍用飛行機は租界上を飛んではいけないのであります。日本人の居留區域の上を非常な低空飛行をして示威運動をした。恐らく支那の方の飛行機が低空飛行をしたのはこの事変の中でこの時だけだつたかも知れない。そこで日本側は非常に射ちたくつて仕方がないところを我慢してまだ調停中だといふので射たずに居つた。さうすると支那側は日本側は何も手出しをしないのだといふ風に侮りましたせいか、翌 14 日になると今度は大型の爆撃機を持つて來て突然爆撃を始めたのであります。陸戦隊の本部とか日本の總領事館、それからこの河の中にある旗艦出雲に對して急に爆撃を始めたのであります。所がどういふものか一つも中らない。さうして矢鱈にこの邊に爆彈を振り撒きまして日本の居留民達、即ち非戦闘員を殺傷しました。のみならずその午後にはイギリスの守備區域の方に飛んで行つてカセイホテル、パレスホテルといふやうな大きなホテルに爆彈を擲げた。なほ伊租界の方迄飛んで來て大世界といふ、之は無論支那人のやつて居る丁度東京の淺草のやうな歡樂場であります。そこに主として關北から避難して來た支那人がギツチリ詰つて居る。その真中にドカンドカんと大きな爆彈を落した。この結果は實に物凄いものでありまして、一遍に千何百人といふ死傷者を出してしまつた。之は皆標も近頃この寫眞を外國の雑誌で御覽になつた方があるかも知れない。日本では一体斯ういふ慘忍寫眞は掲載禁止でありまして、従つて所謂南京路の爆撃の跡といふやうな日本の新聞に出たのも、皆死骸を片附けた後の寫眞であります。私共も初めての寫眞を早く手に入れて、寧ろ之を外國にでも宣傳しやうと思つたのであります。日本では絶対に手に入らなかつた。ところが外國にはさういふ規則がないものと見えまして、イギリス、フランスあたりの一流の雑誌にはこの寫眞が出て居ります。實に之は二目と見られない酷い有様であります。斯ういふやうなことを仕出來しましたのは一体何であるか、私共は寧ろ諒解に苦しむのでありまして、幾ら善意に解釋して間違であつたとか、或は蔣介石夫人の宋美齡が放逐致しました

やうに、日本の高角砲の弾丸に依つて機械に故障を起してどう斯うといふ言譯がありました。どうもそれは受容れられない。もつと近くに落ちたのならばさうとも言へますが、ずつと遠くの方に落ちたのは見當が違つたとか何とか言ふには餘りに開きがあり過ぎるのであります。初め私共は支那で斯ういふ所に爆弾を落したといふことを聽いて、可哀相に支那の飛行機には照準機は無いのかと同情した位であります。兎に角斯ういふやうなことをやりましたのは或一部の説にあるやうに、支那側が苦し紛れに何でも構はない、列國が之は堪らぬといふので干渉に入るやうにといふ魂膽であつたかも知れない。後に白晝アメリカの商船 プレシデントフーバー號を爆撃した如きは誰が見ても間違とは受取れない仕業であります。それで兎に角こんなやうなあらゆる亂暴狼藉を働いた支那の空軍に對して早く日本の飛行機が来てくれれば宜いと思つたのは、單に日本人のみではなかつたさうでありまして、外國の居留民達も齊しくそれを望んで居つたのであります。併しながら御承知のやうに初めの内は日本の飛行機が出てくれなかつた。之は日本人も皆どうしたのか知らんと思つて不思議がつて居つた。のみならず我々海軍省に居つてももう實は口惜しくつて地獄駄陥んだ位でありますから、當の責任者であるところの海軍航空隊の人々はどんなに口惜しかつたか知れない。當時は生憎この邊の海上に稀に見る位の低氣圧が發達して居つて暴風雨であつた。その爲に支那の中に空軍の基地を持つて居らない我が航空隊と致しましてはこの支那海を突破して行かなければならぬ。海上に出て居るところの航空母艦は母艦自体が非常に動揺して居りまして、その甲板の上から飛行機を出發させるといふことは絶対に不可能である。頼むところは唯内地に待機して居つた航空部隊でありまして、之は實はまだはつきりどこから飛び出したといふことは申し上げられません。御推察に任せることに致しますが、何にしてもこの海上を突破して數百哩を飛んで行かなければならぬ。之はもう演習中等でありましたならば、當然禁止されなければならぬ非常な悪天候でありましたが、遂にそれを侵かして飛び出したのであります。新聞等で御承知のやうにいつもはパラシュートを付けて行く飛行士が皆パラシュートを棄て、その代り日本刀を持つて行つた。萬一不時着を致しますれば無論敵地でありますから切りまくつて後は腹を切らうといふ覺悟であります。さうして飛んで行つて直ぐ上海附近の敵の飛行航空基地を見附けまして爆撃を致したのであります。附近で一番大切な飛行場は杭州の飛行場であります。こゝだけに飛行場を三つも持つて居ります。その外蘇州であるとか揚州であるとか飛行機のある所を見附けて爆撃したのであります。15日には遂に首府南京を爆撃しました。それからずつと内地の方のまさかこんな所迄日本の飛行機は飛んで來ないだらうと思つて居つた江西省の南昌、之は支那空軍の一番大きな根據地であります。そこ迄参りまして油断をして飛行機が澤山地上に並んで居りましたのを粉碎致したのであります。南京は首府でありますから防空陣も堅固でありまして、而もこの日は今申したやうに非常に天候が悪く、従つて雲が低く垂れて居りますので、その下に下りて行つて爆撃をしたのであります。それでなくても日本の飛行機は支那の飛行機と違ひまして、もう正確に軍用施設を狙つて一發必中を期してやるのでありますから高度は低く下りて行くのであります。その爲に随分犠牲も大きいのであります。殊に初めの數日の犠牲は餘りに多くありまして、今から白狀致しますれば私共は初めの數日は國民に對しまして本當の數字を發表することが出来なかつたのであります。但しその後發表して居る數字は全体を加へてこの頃ではちやんと正確な數を發表して居りますから、もう御安心なさつて戴きたい。従つてこの初めの數日に日本の海軍航空隊の損害が大きかつただけに、それに伴ふところの美談も數限りなく出た譯であります。

御承知の如く 16 日の南京の襲撃には、特に前申したやうな關係でその防空陣も堅固でありますので相當の損害も出したのであります。彼の軍國の母として、その手紙が國民全体を泣かせました山内中尉のお母さんの手紙といふのはこの頃歌になつたりして居りますが、この山内中尉の飛行機が行方不明になりましたのも南京襲撃

の時であります。16日蘇州の爆撃に行きました南野中尉の飛行機、これはガソリン筒に火がつきまして焼け落ちる時に、最後の爆弾迄も正確に地上の敵の飛行機を狙つて爆撃して、もう最期といふ時に自分の飛行機を敵のガソリン庫目がけて突込んで一緒に爆発した。それから揚州の爆撃に行きまして、之も自分の飛行機が撃たれて落ちる時に飛行機の中からハンケチを振つて僚機に別れを告げて沈着振を示した梅林中尉のことであるとか、さういふやうな話は澤山あるのであります。それ等は多くは悉く壯烈な最期を遂げたものでありますが、この中でこれも皆様新聞等で御承知のことでありませうが、非常に壯絶であると共に寧ろ快絶であるところの一つの飛行機の働きは8月21日の上海の上で闘はれました航空戦であります。この河中にいつも軍艦が居りましたことは前も申上げる通りであります。之は無論航空母艦ではありません、普通の軍艦が持つて居ります飛行機といふのは出ます時には、例のカタバルトといふもので射出することが出来るけれども、歸つて来る時には飛行甲板がありませんから、附近の水の上に下りて来るのであります。従つて之は大きなフロートを付けて居るのであります。海軍では俗に之を下駄と言つて居ります。下駄履の飛行機と言つて之は水の上に下りて来る。大きなフロートがある爲に取扱も従つて不便であります。車輪を付けました飛行機の軽快なものに比べると鈍重であり速力も鈍いのであります。そこで普通戦闘機同士が闘ひましても、向ふが若し車輪を付けた軽快な戦闘機でこちらが下駄履の飛行機でありますと、勝味がない位に考へられてゐる。ところが8月21日の上海の上空に於て支那側はアメリカ製の最新式の戦闘機であるボーイングといふ飛行機4機が出て來ましたのに對して、矢野といふ一等航空兵曹の操縦して居つた所謂矢野機は、下駄履の飛行機1機で以てこの4機に向つて行つたのであります。さうして直ちに敵の1機を撃ち落した。もう一つの1機には不時着をしなければならぬやうな損傷を與へ、まだ敵は2機残つて居る時にこちらは弾を射ち盡してしまつたところが、矢野兵曹はどうしたかといふと、「ヨシッ」といふので自分の飛行機を敵の飛行機に向けて打つ突かつて行つたのであります。之は所謂体當りで……、之より外に方法はないのであります。逃げたら逃げられたか知れないが、思ひ切つて敵に打つ突つて行きましたところが、實に之は天祐でありまして、こちらのフロートで以て向ふのプロペラに打つ突けたのであります。向ふはプロペラが折れたものでありますから眞逆様に墜落した。こちらは下駄が割れただけでありますから、跛を引きながら水の上に下りて來た。そこで飛行機も人も艦上に救はれた。之はもう恐らく航空戦史に於て空前絶後であらうと思ひます。之を我々は下駄履体當りの戦術と言つて居る。こんな戦術を假令矢野兵曹が發明したとしても、又もう一遍やつて見ると言つても誰にも出來ない。偶然ではありますけれども、矢張り断じて行へば鬼神も之を避くと言はれて居るやうに、思ひ切つたことをすれば必ず天祐があるといふ一つの教訓であると思はれるのであります。

之等は誰の眼にもつく非常に華々しい部分であります。又我々は實はこの飛行機をして斯ういふ活動をさせる爲には、人の眼に付かないところに隠れた人々の功績が多にあることを忘れてはならない。それは縁の下の力持をやつて居る飛行機の整備員であります。之は機械の調整や準備をする役目であります。之が實に眞剣に仕事をして居ることは、之は誰の眼にも餘り觸れないのであります。而も今度のやうに餘り人の行かない特別な航空基地を視察に行きました僅かの人だけが目撃をして知つて居ることではありますが、自分達が整備したところの飛行機が闘つて撃ち落されるのは仕方がないけれども、苟も機械の故障の爲に敵地に不時着をしなければならぬといふことは申譯ないといふので、之等の整備員は實に涙ぐましい努力を致して居りまして、翌朝出發するといふ飛行機に付て、もう前の晩から行つて飛行機に離れずに待つて居る。さうして自分が調整したところのエンジンに御神酒を上げて拜んで居るといふやうな眞剣さであります。それが矢張り今度の戦果には非常な成績を現は

して居るのであります。

之等は今特に航空隊だけに付て申しましたけれども、地上に於ける陸戦隊の活動にも非常に目覺ましいものがありまして、先程申したやうに最初僅かばかりの陸戦隊を日本の陸軍が來ない内に殲滅してしまはうといふ決心で向ふはやつて参りました。又特にこの邊はこの前の時にも非常に苦い経験を嘗めたのであります、クリークと申しまして河や之を運ねるところの溝の類、中には非常な大きなものがあつて小さな船も通つて居るし、又中には溝の大きな程度のものもありますが、實に網の目のやうにこの附近一杯にあるのであります。それだけでも天然の防禦線でありまして、そこに持つて來て例のトーチカと申しまして、之はその名前がロシア語である如くにロシアから學んだ一種の鉄筋コンクリートの防禦陣地であります。それが皆到る所に造つてある。市政府を中心にして三重四重に出來て居る。殊に上海から吳淞に行く軍工路といふ所は、この道路の附近に於ては實にトーチカを以て固められた防禦陣地が出來て居る。何と申しましても數萬の支那の中央軍が押し寄せて來たのに對しまして、僅か 3000~4000 の陸戦隊でこれを守つたのでありますから、初めの間は全く文字通り不眠不休の戦闘で交代のない苦戦を続けたのであります。それで之も當時は無論私共は國民に對して秘密に保つて居りましたが、正直に申しますれば、一度はこの楊樹浦と申します邊はこの線を破られまして、さうして支那の兵隊はこの河に迄出て來たことがあるのであります。私共はもうこちら方に残された者はこつちと連絡を断たれてしまつたのでありますから、全滅してしまふのではないかといふことを心配して居つたのであります。陸戦隊の全滅は勿論この地區に住んで居る居留民も悉く通州の二の舞を演じなければならぬといふことは明瞭なことであります。幸にしてこゝには河の中に軍艦が居りましたので、軍艦から盛んに攻撃を加へまして、遂に又歩一歩取返してこの線を保つことが出來た。その内に 8 月 26 日に御承知のやうに我が陸軍が 2 箇所から上陸しまして、此の方から支那軍を圧迫し、大体 9 月半ば頃には敵を斯ういふ線迄段々圧迫して來たのであります。併しながら殆ど最後迄軍工路附近は非常な敵の頑強な抵抗に依つて、黃浦江を上下する船が始終こゝから射たれるといふ有様でありました。何と言ひましても河のことでありますから兩岸から射たれるといふことで、随分長い間船も危険に曝され通してありました。御承知のやうに畏多いことであります。伏見宮博義王殿下が驅逐艦の艦橋に立つて指揮してお居でになる時に浦東側よりの弾片に依つて御負傷なさいましたのも、この河の中の出來事でありまして。遂にこちらでも決心を致しましてこゝに驅逐艦を横付けに致しまして、敵前上陸を致しましてこゝの支那軍を追拂ふといふことをやつたのであります。

元來陸軍の上陸の時の案内役をするのは海軍の役目でありまして、陸戦隊の者が例の白襪隊といふ決死隊を作つて敵前上陸を致しまして、さうして僅かばかりの陸上に地歩を作つて、陸軍の上陸出來るやうにしてやつたのであります。この前の時もさうでありましたが、今度も陸海軍の共同動作が實に美事に行はれたのであります。さうして御承知のやうに最近には 10 月 26 日にこの廟行鎮、これはこの前の事變の時には肉弾三勇士を出したのであります。こゝが落ちる。その次の日に江灣鎮が落ちる。又大場鎮が落ちるといふやうな勢で陸軍側が敵を圧迫して來ました。なほ黃浦江の東岸であるところの浦東側にも支那軍が居りまして、どうしても追拂はなければならぬ。こつちから廻つて行くのは大変であるといふので 11 月 5 日未明に我が軍は全く敵の知らない内に杭州灣北岸に上陸をして、こゝから上海を全く包圍する形に出て來たのであります。そこでこゝに居りました者は早く逃げなければ袋の鼠になりますので、周章して西の方に退却を致しました。さういふやうな譯で今は上海を完全に安全な地域にすることが出來まして、支那側はどんどん退却しつゝある状態であります。

今度の戦局の見通しに付て何か話して貰ひたいといふ御希望はどこでもあるのであります。之は私共豫言者

でないから致し兼ねます。若しも斯ういふことが分つたならば、私共も教へて戴きたい位であります。それならば南京迄攻めて行くのかといふ質問もよく出るのでありますが、それは私よりもこゝにも陸軍の方がお出でになりますから、陸軍の方に聽いて戴きたいのであります。何と申しましてもさう素人考のやうに北支では非常に早く進んで居る。こゝも上海附近こそ堅固であらうが、後は譯はないのではないか、直ぐに南京迄行つてしまふと考へる人もありますが、さう容易にはこの方面は進むことは出来ないと思ひます。色々な事情がありましてなかなか北支のやうに戦況が進捗しない。今後も随分之は支那側の長期作戰に應じて、こちらもゆつくり一つ腹を据ゑて掛らなければならぬ。もう上海附近が落ちたから直ぐ戦争は終ると思つて居たら、當て外れになつて慌てなければならぬことになりはしないかと思ひます。皆様も十分に長期作戰といふことを覺悟の上で總ての仕事をし、て戴きたいと考へるのであります。

大変準備も悪うございまして、又時間も短かい爲に皆様のお満足の行く程話が出来なかつたと思ひますが、私のお話は之で終りと致します。(拍手)

本講演後次の如き質疑應答があつた。

(問) ちよつと伺ひます。この前昭和7年の事變の時と現在の事變の時と我々素人が見ても新聞などでも、非常に支那の兵が強くなつて居るやうに思ひますが、専門家から見ましても實力に差があるのですか。

(答) そのこともよく聽かれるのでありますが、兵の1人1人の個人的勇氣といふことに付ては恐らく餘り差はないと思ひます。この前も御承知のやうに19路軍といふものは主として廣東人から成つて居る軍隊でありまして、支那の中では最も強い軍隊であります。又個人的勇氣にしても、この前の戦闘の時も全く感心するやうな者が澤山居りましてなかなか勇敢にやつたのであります。然し裝備の點に於ては確かに今度の方が非常に進歩して居ると思ひます。それと先程申したやうにこの前は例のトーチカのやうなものはありません。随分丈夫な陣地が出来て居ると申しても謂はば塹壕の少し氣張つた程のものに過ぎなかつた。今度は十分準備を致しましたトーチカのやうな堅固な工事が澤山施してあつたといふことも亦この前に比べて、日本側を困難ならしめた原因の一つであります。それから何と言ひましても兵力の非常に多いといふこと、之れは如何に勇敢な日本側と致しましても、殊に初めの間は日本側の10倍乃至20倍でありますから、之に對して如何に勇敢でも前進して行くことは到底出来ないといふやうな色々な理由がある。飛行機はこの前も支那は持つて居つたが、全然こちらに飛んで來ることが出来なかつた。この前は日本の飛行機は初めから上海の一部分に航空基地を造りましてどんどん使つて居りましたけれども、向側は飛んで參りません。今度は向ふも相當に飛行機を使つて居りますし、それから浦東側は全然敵兵が居らなかつたが、今度は初めからそこにも入つて居つて、そこからも射つので一時苦戦した譯であります。

(問) 今のお話にてトーチカ、塹壕といふことは條約に書いてないから差支ないとして支那側は目茶苦茶にやつたといふことでありますが、それが随分長い間にやつたのでせうか、こちらの方にはそれが分らなかつたのですか、或は分つても今のやうな文面に依つて日本はどこ迄も攻撃することが出来なかつた譯ですか。

(答) その御質問も當然のことでありまして、我々非常にボンヤリして居つたといふ非難を大分受けるのであります。併しながら私もはつきりしたことは申上げられませんが、租界の附近は、租界の中に日本人も非常に多く居り交通頻繁でありますけれども、少し離れたこの廣い區域は、普段日本人の殆んど用のない、從つて通らない地區であります。序でになぜこんな離れた所に市政府が造つてあるかといふ御疑問も出ると思ひますが、之は前の上海事變の時にはなかつた。今度どうしても支那側が、日本のみならず外國の權益に縛られて居るこの

上海を思ひ切つて、こちらに移して大上海と今でも平常から言はれて居るのでありますが、支那の上海をこつちに造つて、上海の貿易もこつちに持つて来ようといふ計畫だらうと思ひます。原つばの真中に市政府を造つて段々こつちに町を引つ張らうとしつゝあつたのであります。併しながらこの邊は今でも寂しい所でありまして町は餘りない。この邊に小さな村がある。従つてこつちは日本人や外國人は通らない所であります。偶々通り掛つて藪藪のやうなものを造つて居つても、不審を持つて聽いても溝を掘つて居るとか、井戸を掘つて居るとかといふ辯解で済む。なぜかといふとこの邊は今も申したやうにクリークが多くつてこの邊は時々小さいポートも通り溝の道も出来て居るのでありますから、運河のやうなものを到る所小規模なものは皆掘つて居るのであります。さういふこともありますので、この邊で土木工事をして居りましても、何とか胡麻化せば胡麻化せられる。それから完全なトーチカを造りました所は、トーチカは御承知のやうにそんなコンクリートを外に曝け出して居るのではありませんので、上に土を盛つてちやんと草を生やして居るのでありますから餘り眼に附かない。併し私等も全く胡麻化されて居たのではないのであります。先程申したやうに氣が付き始めたので抗議を申込んだのであります。今から考へて見ればもつと列國を本當に動かして強い抗議をどんどん申込まなければならなかつたかも知れませんが、これは列國と雖共同責任がある。先程申したやうに停戦協定は各國の公使が之に調印して居るのでありますから、その責任から申しましたならば、日本のみでなく英米等も之を本當に守る爲には共同責任上支那に抗議を申込まなければならなかつたのであります。何れも自分達の家を借りて居る家主のやうなものでありますから支那に對して餘り強いことも言はなかつた。それで日本側はこれほもういかぬと思つても實力を以て争ふ迄に至らなかつた。唯口先の抗議では實際の効果がなかつたのであります。

(問) この黄浦江の東の岸にその図に赤で印をした所がありますが、それは何ですか。

(答) 之は皆日本人の經營して居ります會社とかその倉庫類であります。この邊に日本郵船の浦東碼頭とか、日本海軍の用地とか、三井洋行の倉庫とかいふやうなものがある。

(問) その邊が浦東と申しますのですか。

(答) 浦東といふのは私もはつきり存じませんが、黄浦江の東といふ意味でこの邊全体を浦東と言つて居る。こちらの餘り南の方は浦東とは言はないだらうと思ひますが、この邊一帯を浦東と言つて居る。

(問) それ等の間に又イギリスや何かの色々の會社があるのですか。

(答) この邊にアメリカ、イギリスあたりの會社倉庫もありまして、今度の事変にも御承知のやうに支那軍が殊にイギリス側の倉庫などを使つて、そこから射撃をしたとか、或はそこから水雷を仕掛けたといふやうなことが問題になつて居るのであります。